



壁面サイズの巨大写真がお出迎え

この展覧会は、写真家の篠山紀信さんの撮影により、美術家である横尾さんと、横尾さんに影響を与えた人々とのツーショットを取めた写真集『記憶の遠近術』(講談社、1992年)に基づいています。撮影期間は1968年から1976年の約8年間で、写真集に収録された作品から71点を選び、関連作品4点を加えた計75点が出品されています。同書は、当初は『私のアイドル』というタイトルで、横尾さんと、横尾さんにとっての“アイドル”的な人々との写真集となる予定でした。計画がスタートした1968年、横尾さんはアングラ演劇のポスターを次々と発表し、一躍時代の寵児となりました。アングラやサイケの教祖のように扱われ、メディアに引っ張りだこだった横尾さん自身が、一種の文化的アイドルだったのです。この写真集には芸能人から文化人、スポーツ選手に至るまでそうとうなる人々が登場していますが、横尾さんからのオファーなら誰もが喜んで撮影に協力したといえます。



昭和を彩ったスターが勢揃い

三島由紀夫さんから始まり、浅丘ルリ子さん、美輪(丸山)明宏さんと、撮影は次々に進んでいきました。これらは、横尾さんのポスターなどのグラフィック作品のモチーフにもなるなど、親しく交流した人々です。多くはスタジオ撮影で、背景やライティングを工夫し、相手のキャラクターにあわせて横尾さんが様々なコスプレを行うなど、凝った演出が施されています。同じ頃、篠山さんはエネルギー溢るようなスード写真を次々と発表し、気鋭の写真家として注目を集めていました。撮影環境を周到に整え、人体のフォルムを強調した演出性の強い作風は、能動的な写真表現を求める当時の篠山さんの関心を反映しています。



浅丘ルリ子 | 1968

今回の展示の見どころのひとつは、巨大に引き伸ばされた写真の迫力です。1Fオープンスタジオには、1970年に西脇で撮影された同級生たちとの写真が横幅5.5メートルに引き伸ばされています。『記憶の遠近術』とは別の作品ですが1987年に横尾さんのアトリエの様子を“シノラマ”撮影した、横幅なんと9メートルの、まるで壁画のような写真が出現しています。2Fの展示室には、60年代の写真を中心に、横尾さんと著名人たちのツーショットが15点展示されています。15点という少ないようですが、すべて2.7メートル角という大きさで、巨大なポートレートにぐるりと取り囲まれた展示空間は、迫力満点でありながら、どこか荘厳な感じがします。篠山さんの写真哲学でもあるのですが、額縁に入れた印画紙を鑑賞する、いかにも“美術館的”な展示よりも、自由自在に引き伸ばせるという写真の特徴を活かし、全身で体感するような写真展を目指してみました。

山本淳夫 | 本館学芸課長



篠山さんの写真をモチーフにした、横尾さんの絵画作品

Information 次回展関連イベント

阪神・淡路大震災20年展 横尾忠則 大涅槃展

2015年1月24日(土)~3月29日(日)

休館日:月曜日

観覧料:一般700(660)円、大学生550(440)円、高校生・65歳以上350(280)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体および前売(高校生、65歳以上は前売なし)料金

※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

玉川奈々福 浪曲ライブ

出演:玉川奈々福(浪曲師)、沢村豊子(曲師)

日時:2月22日(日)14:00~15:30

会場:当館オープンスタジオ

定員:100席

※聴講無料、要観覧券チケット

ねんどで my 涅槃

日時:2月14日(土)、2月21日(土)

①10:30~11:30 ②13:30~14:30

③15:00~16:00 ④16:30~17:30

会場:当館オープンスタジオ

参加費:無料 ※高校生以上の参加者は要観覧券チケット

定員:各回先着15名

※当日オープンスタジオにて受付(事前予約も受付しています)

※予約状況はHPにてご確認ください(随時更新)

キュレーターズ・トーク

講師:当館学芸員

日時:2月28日(土)、3月14日(土)

いずれも14:00~14:45

会場:当館オープンスタジオ

定員:100席(当日先着順)

※聴講無料

※各イベントの詳細はHPなどでご確認ください

「横尾忠則の地底旅行」開催



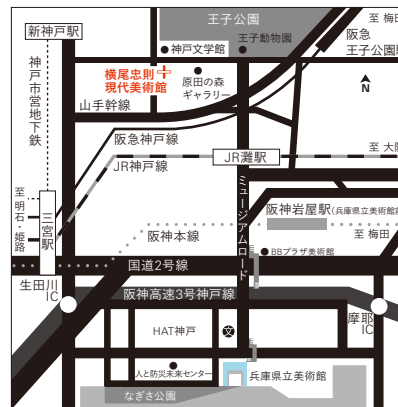
庄巻の滝のポストカード



開放的な展示空間に洞窟をモチーフとした作品が並ぶ

2014年10月3日から12月7日にかけて、鹿児島県の霧島アートの森で「横尾忠則の地底旅行」展が開催されました。展覧会では「洞窟」というテーマのもと、神話・地底・Y字路などのキーワード毎に横尾作品を紹介していました。「洞窟」は横尾さんが画家を志した高校生の頃に描いている重要なモチーフです。横尾忠則現代美術館からは、当館でも未公開のテクナメーション作品2点を含めた27点の作品を貸し出しました。まず、展覧会入口には、4,600枚の滝のポストカードが設置されています。胎内めぐりを想起させる仄明い通路を通り抜けると、横尾ワールドの幕開けです。天井高のある開放的な展示室の周囲を横尾作品が取り囲み、テーマ毎に作品を展示している小部屋をぐるりと回ると、入口と出口がつかっています。何度でも展示室を回りたくなるような仕掛けで、多くのお客さんを魅了していました。

橋本こずえ | 本館学芸員



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.8

2014年12月25日発行

編集・発行:横尾忠則現代美術館 印刷:株式会社 大伸社

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

特別展 阪神・淡路大震災20年展 | 日本・スイス国交樹立150周年記念
フェルディナント・ホドラー展
2015年1月24日(土)~4月5日(日)

県美プレミアム

阪神・淡路大震災から20年

11月22日(土)~2015年3月8日(日)

第1部 自然、その脅威と美

第2部 今、振り返る-1.17から

第3部 10年、20年、そしてそれから-米田知子

※兵庫県立美術館の特別展・県美プレミアムの有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記

当初の写真展、いつもとは違う雰囲気は楽しんでいただけたでしょうか? 今号を編集している現在、「大涅槃展」のために、横尾さんの膨大な涅槃コレクションをスタッフ総かりで調査中です。どんな展覧会になるのか…次号の特集でお伝えします! (作花)

the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



阪神・淡路大震災20年展

Special Report “記憶の遠近術 ~篠山紀信、横尾忠則を撮るYOKOO BY KISHIN”

Event Report

01 アーティスト・トーク

02 シルエット de アート

03 インタースタッフ・

博物館実習活動報告

Preview

横尾忠則 大涅槃展

Column

作品・資料の保存と活用3

テクナメーション作品の修理1

Editors' Choice

MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館 展覧会スケジュール

WINTER 08 2014.12.25

Special Report 記憶の遠近術 ~篠山紀信、横尾忠則を撮る YOKOO BY KISHIN



エレベーターのなかにも横尾さんが

2015年1月24日(土)～3月29日(日)



横尾さんの涅槃像コレクションより

ある聖／俗、死／生といった関係性を軸として、涅槃像を用いたインスタレーションのほか、「涅槃」ポーズを持つ近代絵画の裸婦像と近世の涅槃図を集めて展示します。また、涅槃に関連する横尾さんの絵画、版画、ポスター、装幀をあわせて展示し、横尾作品における涅槃の意味を探ります。

林 優 | 本館学芸員

Column 作品・資料の保存と活用3 —テクナメーション作品の修理—



(ニギハヤヒと鶴) 動作確認



(ニギハヤヒと鶴)1993 横尾忠則現代美術館蔵

現代美術作品の修理と聞くと、その必要性について疑問を持たれる方もおられるのではないのでしょうか? 「新しいのに修理だなんて!」と。近年、制作技法や素材が多様化し、素材によっては劣化の進行が非常に早かったり、装置を使った作品では「必要な交換部品の生産が終了した」などといった深刻な問題が浮上り早急な対応が必要になってきています。今秋、霧島アートの森で開催された「横尾忠則の地底旅行」展への出品を機に当館所蔵のテクナメーション作品2点の修理を行いました。「テクナメーション」は光源と2枚の偏光板を使用してイメージの一部を動いているように見せる技術です。そのため、イメージ部の納まった額縁の裏側に蛍光灯とモーター、偏光板などの入った箱が付いた形状になっています。今回の修理はイメージ裏の偏光板の剥離部分の再接着と光源側の偏光板の回転不良の解消(部品交換)、経年劣化した蛍光灯の取替え作業を行いました(作業は、装置部分の制作を担当した業者に依頼して、館内で執り行いました)。作品修復の原則では、オリジナルを維持することが求められますが、今回は機能性を回復し鑑賞性を向上させるために「部品交換」、「取付け位置の調整」を含む少し踏み込んだ修理になりました。「何をどのように変更したのか」その記録を残すことで、必要とあれば制作当初の元の姿に戻すことができるように配慮しています。近い将来、光源の変更が必要となる日が来ることも視野に入れながら、より良い方策を探って行きたいと考えています。

上羽真弓 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 01 アーティスト・トーク

2014年10月11日(土) 14:00-15:30 | 当館 オープンスタジオ(1F)



篠山紀信《藤原千恵子》| 1970

今回のアーティスト・トークは、本来なら篠山紀信さんと横尾さんとの豪華対談になる予定でした。ところが、直前に横尾さんが体調を崩し、急遽入院することに(その後ぶじ退院されましたのでご安心ください)。

当初、篠山さんは非常に困惑されました。「もともとこれは、紛れもなく横尾忠則の作品なんだよ。人選から撮影アイデアまでぜんぶ横尾ちゃんが考えて、ぼくはいわれた場所に行ってシャッター押しただけで。あたしひとり何しやべればいいんだよ!」結局、筆者がスライドのオペレーター兼聞き手として登壇することになりました(役者不足で本当に申し訳ありません)。

ところがステージにあがった途端、篠山さんのマシンガントークが炸裂です。「青バットの大下と赤バットの川上と一緒に撮ったときだって、スタジオの雰囲気にもまれた横尾ちゃんが『もう帰りたい』っていうもんだから、本気で怒ったの。」写真集『記憶の遠近術』には収録されていない作品ですが、『Kaleidoscope』(1968年)という写真があります。ふたりの女性ヌードモデルに横尾さんが蛍光塗料でボディ・ペイントを施し、ブラックライトをあてて撮影された、60年代の篠山さんの代表作のひとつです。「モデルさんが疲れないうちに、ものすごく早く描かなきゃいけない。なのに文字も絵もこんなにきれいに描けるなんて、やっぱり天才なんだよね」そして、70年代の篠山さんの自信作のひとつが、横尾さんの故郷、西脇で小学校の担任の先生と写した写真です。当時19歳だった美しい先生に、横尾さんは密かに憧れていました。「今では考えられないことですけど、横尾さんは特別に先生の家で個人授業を受けてたそうですね」「先生がベッドに腰掛けて、こっちにいらっしやい、と微笑みかけ…」「え、そんなこと聞いてみませんか?」「うそだよ。本人いないから、もう何でもいっちゃう(笑)」

山本淳夫 | 本館学芸員

EVENT REPORT 02 シルエット de アート

2014年8月20日(水) 13:30-16:00 | 当館 オープンスタジオ(1F)



アーカイブ資料を熱心に見つめる子どもたち



スプレーの扱いにも慣れできました



壁一面の大作が出来上がりました!

シルエットが特徴的な作品の一つに《嵯峨御流いけばな(嵯峨御所大覚寺門跡嵯峨御流いけばな)》(1985)があります。カラースプレーを草花の上から吹きかけることで表れるそれぞれのシルエットは、普段見ている姿とは違う形の面白さがあり、想像力を掻き立てます。これと同じ技法で作品を制作することで、横尾さんの制作手法を体験する子ども向けのワークショップを開催しました。まずは、この技法で制作された装幀の原画や試作品をアーカイブルームで鑑賞しました。間近でじっくり見ることで、横尾さんの仕事の緻密さや原画の美しさに皆感じ入っていたようでした。鑑賞した後はいよいよ制作です。リボンやペットボトルなど身の回りにある物を利用して、大きな布に海と空の風景を皆で描きます。材料を巧みに組み合わせ魚や鳥の形を作り、手足が汚れるのもお構いなしにどンドンカラースプレーを吹きかけていきます。最後に、皆で一斉に布の上に置かれた物を取り払っていくと、意外な形や様々な色が重なり合うイメージが現れ、予想外に面白い作品が完成しました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 03 インターンシップ・博物館実習活動報告



資料調査作業の様子



ワークショップ対応の様子

アーカイブルームでは、横尾さんに関する記事やエッセイが掲載された書籍資料などを調査し、最終的にはパソコン上で検索・閲覧できるシステムを構築することを目指して武蔵野美術大学 美術館・図書館と共同調査事業を行っています。また、調査作業の行程においては、当館の学芸スタッフだけでなくインターンシップ制度の活用などによる複数の大学の連携協力を得ながら進めています。今年度は、昨年度から続いている神戸芸術工科大学インターンシップに加え、甲南大学と武蔵野美術大学の博物館実習、計3校12名の学生さんに参加いただきました。膨大かつ多様な資料を1点1点確認し、書名や発行年、掲載内容などを写真で記録しデータ整理をするという地道な作業を、緊張しながらも丁寧に続けてもらいました。インターン生・実習生の活動はそれだけではなく、ワークショップやコンサートでは、会場準備から当日対応、後片付けにも携わりました。お客様に快適に過ごしていただくためには、様々な準備・心配りが必要なることを実感できたのではないのでしょうか。他にも図書整理やアーカイブルームの展示替え作業などの業務にも関わってもらいました。来年度以降も大学機関等との連携を強めながら、アーカイブルームの充実を図っていききたいと思います。そして、学生さんたちに体験を通して当館や横尾さんについての理解や親しみを深めていただけることも、当館にとって大きな収穫です。

奥野雅子 | 本館学芸員補助

Editors' Choice MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

MUSEUM SHOP 定休日:休館日に同じ Tel:078 855 5697



「泣き笑い人生」シリーズ新商品。この他にもまだまだ入荷しています!

今秋、ミュージアムショップに「泣き笑い人生」シリーズの新商品を多数入荷しました。大と小のサイズがあるシュシュは、親子でお揃いのコーディネートにいかがでしょうか。一見ドット柄のネクタイやボウタイは、よく見ると泣き笑いの顔がプリントされているという小粋なアイテム。この他にもシャツや帽子、バッグなど新しい商品を取り揃えています。ミュージアムショップにも、ぜひお立ち寄り下さい。

作花麻帆 | 本館学芸員補助



《チェンジ伊豆 2000!》(伊豆新世紀創造祭全体実行委員会、静岡県) | 1999 | 横尾忠則現代美術館蔵

アーカイブルーム



『話の特集』創刊号 1966年2月号(発売は1965年12月)、日本社

1965年に創刊された雑誌『話の特集』。アート・ディレクター和田誠さんの依頼により、横尾さんは創刊から1年間とその後2期に渡って延べ47回表紙を手がけています。創刊号の表紙は旭日旗を連想させる放射状のモチーフを背景に、アメリカ国旗柄のネクタイとシャツをまとった現代音楽家ジョン・ケージ。以降の号も横尾さんらしい印象的なデザインが続きます。1974年9月号からは友人の肖像シリーズが描かれました。柴田錬三郎さん、片岡秀太郎さん、田中一光さん、美輪明宏さんなどが登場し、1968～76年に篠山紀信さんが撮影した『記憶の遠近術』とも重なります。1960～70年代にかけての横尾さんの画業と交友関係を堪能できる作品です。

奥野雅子 | 本館学芸員補助